



# 丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

平成 31 年 1 月 31 日 (木) No. 10  
横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

## 「共助の大切さ」

副校長 青柳 英樹

1 月の中旬ごろ、出勤のため薄暗い中を最寄り駅に歩いて向かっていると、東の空に明るく輝く星が二つ、その少し右側に赤く光る星が一つ見えていました。その下には見事なオレンジ色の朝焼け。冷たい空気の中、清々しさを感じながら通勤していました。明るく輝く星は金星と木星、赤く光る星はさそり座の一等星アンタレスです。2 月の中旬には金星と土星が接近し、木星とアンタレスも見られるようです。早起きは三文の徳ではありませんが、早起きをして楽しみたいと思っています。

1 月 26 日 (土) に、本校の体育館・グラウンドを会場として、地域防災訓練が行われました。体育館では無線通信情報受伝達訓練と煙体験が、グラウンドでは災害用地下給水タンクからの給水栓取扱訓練、消火器取扱訓練、炊き出し訓練、物資配給訓練などが行われました。参加された 80 名以上の地域の方々は、真剣な表情で説明を聞いたり、万が一を想定しながら体験したりしていました。今回の訓練には、近隣の保育施設も参加していました。この訓練の運営には、地域の運営委員の方々を中心に、区役所、消防署、消防団、水道局の方もかかわっています。自助・共助・公助の連携が重要であると言われますが、地域防災訓練に参加してみると、共助の大切さを実感します。横浜で大きな地震による災害が起こることを想定するならば、都市型の阪神・淡路大震災が教訓になるのではないかという話を聞いたことがあります。阪神・淡路大震災では、被災者の数は 30 万人以上に上りましたが、当日に対応できる自衛隊の人は約 8 千人しかいなかったそうです。公助にも限界があるようで、その際に大切になるのが共助ということになります。消火器取扱訓練では、「一人で解決しようと思わない。「火事だ。」と叫べば助けが来たり、119 番通報する人がいたりする。」と説明されていました。地域の中で、日頃から顔の見える関係をつくっておくことも大事なのだなと感じました。本校の子どもたちも、地域の一員であるという意識や、地域にかかわろうという思いがもてたらと考えます。

本校でも、横浜市の流行とともにインフルエンザによる欠席者が増え、学級閉鎖となるクラスが出てしまいました。拡大防止のため、早朝に廊下と全教室の窓を開け換気をしています。また、教室の換気、せっけんを使った丁寧な手洗い、うがいの励行を、中休みと昼休みに、毎日放送で呼びかけています。ご家庭でも、できる限りの予防、拡大防止に取り組んでいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

